

18. 継続的モニタリングによる酪農経営改善への取り組み

中部振興局生産流通部、農林水産研究指導センター畜産研究部¹⁾

○後藤 史明、石橋 隆史
森本 慎思、池田 正一¹⁾

1 活動の目的

近年の酪農経営は、飼料価格の高止まりや乳価の上昇が見込めないことにより、生産者の利益幅が少なくなっている。このような情勢下において、乳牛の1頭当り乳量を向上させて収益性を向上させることが基本である。

しかしながら、乳量の向上を図るためには、長年行ってきた飼養管理の慣行を変えることが必要であるが、これにリスクを感じる生産者もあり、生産者が改善に踏み切れるような提案手法が必要である。

本活動では、飼養管理の改善により生じる効果を明確にし、継続的なモニタリングを行うことで経営改善に結び付けた。

2 概要

(1) 実施農場：経産牛70頭規模 フリーバーン1群管理

(2) モニタリング方法

(ア) 日々の搾乳量、搾乳牛頭数を継続的に記録。

(イ) 搾乳量に乳価を乗じ一日の乳代を算出。

(ウ) 搾乳牛にかかる一日の飼料費を乳代から引いた「エサ代差引乳代」をモニタリング指標とし、その推移に基づいて生産者と飼養管理の改善を実施した。

3 飼養管理改善の内容

実施農場の調査を行ったところ、残飼量を気にするあまり飼槽に飼料がない時間帯があったことから、牛群は十分な飼料を摂取できていないことが考えられた。一群管理の場合、牛の強弱が生じやすいため、飼料摂取量を確保するためには不断給餌を行うことが基本となる。そこで、常に飼槽に飼料があるように増給したところ、飼料摂取量が増加して1頭当たり乳量は徐々に向上した。

4 考察

効果を判断しやすい具体的なモニタリング指標を継続的に示すことで、生産者の飼養管理改善に対する意欲を高めることができた。また、日々のモニタリングにより、乳量が下降し始めた際には早い段階で対処することができることから、経営改善を行ううえで有効な手法であると考えられた。